

令和3年10月20日

報道機関各位

**令和3年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構
職員表彰の決定について****(概要)**

北海道立総合研究機構では、地方独立行政法人北海道立総合研究機構職員表彰規程に基づき、北海道の産業開発や道民生活の向上に特に貢献した研究・発明発見を行った職員に対して、知事賞・理事長賞を授与しています。

このたび、今年度の受賞者を次のとおり決定いたしましたので、お知らせします。

【知事賞】

研究名	耐高温エロージョン・コロージョン金属材料の開発
受賞者名	耐高温エロージョン・コロージョンチーム（4名）

【理事長賞】

研究名	媒介虫の越冬抑制によるテンサイ黄化病の発生低減技術の開発
チーム名	テンサイ黄化病対策チーム（2名）
研究名	道産 CLT の製造技術と利用技術の開発と実用化
チーム名	道産 CLT 製造・利用技術開発チーム（9名）

※各研究の概要については、別紙をご参照ください。

(その他)

表彰式を次の日程で執り行います。

なお、今年度から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点を考慮し、オンライン（Zoom）形式により開催します。（当日の視聴はできませんので、ご了承ください。）

受賞者への取材は、表彰式後に行っていただきますよう、よろしくお願ひします。

○表彰式

- ・開催日時 令和3年10月27日（水）15:00～16:00
- ・開催方法 zoom を活用したオンライン形式により実施（非公開）

詳しくはこちらへお問い合わせください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（道総研）

本部 経営管理部 人事グループ（担当者：中山）

電話 011-747-2813 ※平日8:45～17:30 土・日・祝日・年末年始はお休みです。

研究・発明発見受賞研究概要

○知事表彰

研究名	耐高温エロージョン・コロージョン金属材料の開発
研究概要	<ul style="list-style-type: none">・流動床ボイラ技術は、バイオマスを燃料とした再生可能エネルギーの普及とともに市場が拡大しているが、流動媒体の衝突による腐食摩耗（エロージョン・コロージョン）により表面コーティング層が使用中に損耗するため、定期的なメンテナンスコストがかかる。・大学、企業との共同研究により「一般的に耐食性に劣る Fe の添加量を高め、かつ表面に凹凸構造を形成させる」という今までにはない全く新しい材料設計原理に基づき、耐高温エロージョン・コロージョン性が飛躍的に向上する新規コーティング材料を開発し、特許も出願した。・この技術により、バイオマス発電ボイラ全体のコスト低減が可能になり、北海道での再生可能エネルギー活用の拡大が期待できる。

○理事長表彰

研究名	媒介虫の越冬抑制によるテンサイ黄化病の発生低減技術の開発
研究概要	<ul style="list-style-type: none">・北海道の基幹畑作物であるてん菜に発生して著しい減収を引き起こす「テンサイ黄化病」は、平成 21 年頃から全道的に多発し大きな問題となった。・この研究では、てん菜の主要産地である道東におけるウイルス媒介虫種と生態を明らかにし、その越冬を阻害することで、てん菜ほ場の黄化病発生を大幅に抑止できることを示した。・この技術は防除効果が高いことに加え、新たなコストが不要、化学農薬使用量の大幅な低減、防除に要する労働時間の削減といった特徴を有している。・十勝管内全域を対象とした大規模な現地実証試験を展開した後、全道の生産現場で活用され、現在では黄化病の被害はほぼ皆無となり、てん菜の安定生産に大きく貢献した。

○理事長表彰

研究名	道産 CLT の製造技術と利用技術の開発と実用化
研究概要	<ul style="list-style-type: none">・木造建築分野では、大面積で高性能な木質パネル「CLT」が世界的に注目され、日本でも JAS や建築基準法の整備がスギをベースに行われた。・主要な道産樹種であるカラマツ・トドマツを用いた道産 CLT を実用化するには、独自の製造条件の検証や様々なデータの整備などが必要であったことから、本研究では、材料強度試験や接合性能試験を行い、それらのデータを収集した。その成果が活用され、建築基準法に両樹種の材料強度が追加され、道産 CLT での建築物の設計が可能となった。・また、カラマツ CLT に最適な高周波加熱プレス方法を開発し、生産スピードの向上、生産量の増加、製造コストの削減を可能とし、木造建築の建設促進と道産木材の利用拡大に貢献した。